

2015春季生活闘争

3. 8国際女性デー全国統一行動北海道集会

連合は1996年から春季生活闘争の中に国際女性デーの行動を位置づけ、全国で行動を展開しています。

今年の連合北海道の集会は3月7日（土）13時から京王プラザホテル札幌において開催され、14産別2地協から150名の参加がありました。



この日は連合の古賀申明会長も来賓として参加しました。

古賀会長は連合が今季春闘で掲げている三つの柱「賃上げ」「時短」「政策・制度の要求実現」について述べ「そのためにしなければならないことは3つある。1つは仲間を増やすこと、次に、社会に広がる運動をすること、そして、政治の力をつけることである。政治に無関心であっても私たちの暮らしは政治と

無関係ではありえない」と、政治闘争の重要性も訴えました。

三宅由美札幌市議の来賓挨拶のあとには、会場に駆けつけた秋元克広札幌市長候補予定者からも「市政でも女性の輝く場を応援していきたい」と挨拶を受け、会場から激励の拍手が送られました。

続いて「私が求める働き方とは」をテーマとするパネルディスカッションに移りました。

コーディネーターの畠山みのりさん（NTT労組執行委員）から「言葉のセクハラ、妊娠による降格などの裁判で企業に対する女性の訴えが認められるニュースが続いている。今改めて女性の働く方が注目されている」と、女性を取り巻く状況について説明があり、4人のパネラーによるディスカッションに入りました。



広田まゆみ北海道議は「北海道の雇用は大変厳しい状況にある。今の知事は10万人の雇用をつくると言っているが、それが正規か非正規か問題である。また北海道では男女平等参画推進計画ができていない市町村が多い」と述べました。

村上ゆうこ札幌市議からは「男女雇用機会均等法ができて30年たつが平等になっているだろうか。札幌市議会は68名中17名が女性で、女性が言いたいことを言えるようになりつつある」と、それぞれ議員の立場から現状や課題について話されました。



池田まきさん（フリーソーシャルワーカー）は「福祉は政治でしか救えないことが多い。介護、保育など家庭で行われてきたものが社会化され、職業となったが、家庭内で女性がやってきたことのため『誰でもできること』とみなされ、低賃金で地位も低い」と福祉政策の問題点を指摘。

目黒美生さん（フード連合）は若手組合員として、「組合に入るまでは、社員は会社のやり方に従うものだと思っていた。しかし組合で活動し、どうしたらよいのかと考えるようになった。自分がやるべきことはこのような場で学習すること、そしてそれを自分だけではなく他の人にも広めて、仲間を増やしていくことだと思っている」と組合活動に対する思いを話されました。



パネラーやフロアからの意見を受けて、コーディネーターの島山さんが連合北海道女性委員会の「プロジェクトW」について紹介して政治の重要性を改めて訴え、パネルディスカッションは終了しました。

今後、春闘や統一自治体選挙の取り組みを通し、私たちの要求を実現し「働くことを軸とする安心社会」をめざしていくことが重要です。